十島村教育委員会だより　令和２年８月号

むらやかトカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

「見あげてごらん夏の夜空を」

十島村教育長　有　村　孝　一

コロナ禍で日本中の人々の気持ちが沈みがちになっています。本来あるべき日常がありません。「新しい生活様式」が定着してきますと、マスク着用が当たり前の、これまでは考えてみたこともないようなことが日常になってきます。私たちは、これに順応していかなくてはなりません。

そんな中、視線を少し上にもっていって、夏の夜空を見上げてみませんかという話です。夏は夜空がきれいです。鹿児島より十島のそれははるかにきれいなことでしょう。夏の空を代表するのがさそり座や白鳥座などが有名です。また、白鳥座のデネブ、ワシ座のアルタイル、こと座のベガの3つの星を結んだ細長い大きな三角形を、夏の大三角形と呼んでいます。ベガとアルタイルは、七夕伝説における「おりひめ（織姫）」と「ひこぼし（彦星）」です。そしてその間を天の川が流れています。

その夜空を見ていると、時々人工衛星が飛んでいることがあります。実は、8月4日から9日にかけて時間は20時34分や19時47分などとまちまちでしたが、国際宇宙ステーション日本実験棟（ISS）「きぼう」を見ることができたのです。

JAXAのホームページ等によると、国際宇宙ステーション「きぼう」は、地上約400km上空に建設された、人類史上最大の宇宙施設です。その大きさは、ほぼサッカー場ほどの大きさで質量は約420トンになるそうです。地球1周約90分で自動落下しながら回っているため、中は地上の100万分の1ほどの重力しかありません。

また、各種の宇宙放射線が降り注ぎ、ISSの周りはほとんど大気がありません。このような特別な環境を利用して、宇宙での実験・研究や地球・天体の観測などを行っているのがISS計画というのだそうです。このことにより、科学技術をより一層進歩させ地上での生活や産業の発展に役立てることを目的としているのだそうです。その「きぼう」を8月5日に見ることができました。

約6分間ほどでしたが、北西の空を明るい星のような光が、飛行機よりも速いぐらいのスピードで移動していくのを、はっきりと観察することができました。

夏はこのほかにも「ペルセウス座流星群」が8月11日から14日未明にかけて最大で30個ほどの流れ星を観測できたようです。

夜空を眺めてしばしコロナ禍を忘れて、広大な宇宙へと思いをはせた夏のひと時でした。まだまだ、コロナウィルス感染症は広がりを見せています。皆さんで気を付けて過ごしていき、一日も早い終息を願うばかりです。

今月の「十島パワーにパチリ！」

【６月１３日（土）中之島小中学校の様子】

【トカラ集会　】

今年は、コロナウィル感染拡大防止のために、全国のほとんどの小・中学校が休校となりました。その間に、インターネットを使ったＷｅｂ授業が行われるなどの工夫が報道されていましたが、十島では、テレビ会議システムを使った遠隔授業がいち早く取り入れられてきています。このテレビ会議システムを使って、毎月第２土曜日の登校日には、「トカラ集会」を実施しています。今年度は、各島の特徴をクイズにしたり、島に伝わる行事等を発表したりして、とても有意義な時間を過ごしています。進行は、毎月、各学校持ち回りで、当番制ですが、とても立派に集会をリードしてくれています。これからも、楽しみです。

子供のうた

八月十一日　南日本新聞掲載

ヤギのすず

ねこのように
小さかったすず
今では
すっかり大きくなった
ぼくが見ると　遊んでと
すぐにメーメーなく
ぼくがすわると乗ってくる
ぼくが近づくとつついてくる
ぼくが見えないと
行かないでと
すぐにメーメーなく
とってもとってもかわいい
あまえんぼうのすず

（悪石島小五年　久永　大地）

シリーズ・・・十島村で学ぶ

平島での一学期

平島小学校　６年　島田　宇海

僕は今、平島で一学期を終えようとしています。この日まで、いろんなことがありました。その経験は、初めてで、しかも、どれも素晴らしい経験でした。

一番最初に体験したのは、「つり」でした。僕は、川でしかつりをしたことがなかったので、とても楽しみでした。何よりも驚いたのは、魚をたくさんつることかできるということです。海づりは、なかなかつれないというイメージがあったのですが、ポンポンとつれることがあるので、つりにいくことがとても楽しみです。

次に好きになったものは「変形菌」です。島に来て、図書室でふと目に留まったのが「変形菌」という本でした。平島には、千年ガジュマルという大きな木があります。そこに、月に一回は「変形菌」を探しに行っています。他にも、タケノコ採りやトビウオすくいも、体験しました。そして、今、僕は「平島太鼓」の練習を頑張っています。この島に来て、まだ少ししか経っていませんが、とてもいい所です。これからも、一日一日を大切にして、よい一年にしたいと思います。

【宝島小・中学校からのメッセージ】

教諭　志戸岡　直希

宝島小中学校に赴任して１年が経ちました。ちょうど１年前に期待と緊張の中、鹿児島を出発し、宝島に到着すると、児童生徒や保護者、多くの島民のみなさんに出迎えられたことが昨日のことのように思い出されます。この一年間を振り返り、教育活動で特に力を入れて取り組んできたことが２つあります。１つ目は、複式学級の指導です。これまでは、単学級での経験しかなかったので、複式学級での指導は初めての経験でした。最初は、授業の組立てを試行錯誤しながら、終えるだけで精一杯の日々でしたが、十島村教育研究会や校内研修を通して、少しずつ授業の内容を高めていくことができました。今年度は、昨年度よりも授業力を高め、本校の児童の学力向上に努めていきたいです。２つ目は、スポーツ少年団の指導です。宝島小中学校では、全児童生徒がバドミントン部や少年団に所属しています。少年団では、技術面や体力面だけでなく生活面の向上にも取り組んでいます。最後まで諦めず粘り強い心をもち、あいさつや返事、感謝の言葉など、当たり前のことを当たり前に言える児童を今後も育成していきたいと思います。家庭・地域・学校が一体となり島全体で行う教育活動は、子どもたちの成長にとって必要不可欠であると感じます。これからも子どもたちのためにより一層邁進していきます。

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

十島での出会いを大切にし、十島の児童生徒のためにこれからも頑張っていきましょう。

【口之島小・中学校からのメッセージ】

教頭　　尾崎　成就

「なんか懐かしいなあ」。最初に口之島に降り立ったときの素直な感想です。他県ではありますが離島出身の私が生活していた島によく似た雰囲気を感じました。まだ薄暗い早朝、港で、児童生徒・保護者の皆さん・先生方に温かく出迎えられ、新しい生活のへのやる気が湧いてきたのをはっきり覚えています。後日改めて港に行ったときに、港のつくりや形状、雰囲気が故郷とよく似ていて、なにか縁のようなものを感じました。

不安だらけのスタートでしたが、児童生徒たちの笑顔やがんばっている姿に元気をもらい、島民の方々とのふれあいに活力をもらい、職場の先生方に勇気をもらいと多くの方々の支えのおかげでなんとか１学期を終える事ができました。

新型コロナの影響で、これまで通りの行事や学校活動が縮小、中止になりとても寂しく感じています。また、地域の方々とのふれあいなどもなかなかできていない状況です。そんな中でも今できることに情熱を注いで、縁あって（自分の解釈）赴任した口之島小中学校・地域の力になれるようにがんばっていきたいと思います。

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

口之島で勤務していますが、十島は一つです。ぜひ、みんなでチーム「スクール十島」で、お互いに助け合いながら本年度もみんなでがんばっていきましょう。皆さん、よろしくお願いします。

８月は　人権同和問題啓発月間です。

新しい令和の時代が幕を開け、１年延期になりましたが、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控えた今、我が国では、未来に向けて社会全体で人権問題に取り組もうとする気運がかつてなく高まっています。

しかし、一方では、いまだに、生命・身体の安全に関わる事象や不当な差別などの人権侵害が存在しています。特に、いじめや児童虐待などにより子どもが命を落とすといった痛ましい事案が依然として後を絶たず、また、スマートフォンなどの普及とあいまって、インターネット上で、他人を誹謗中傷したり、個人の名誉やプライバシーを侵害したり、あるいは偏見・差別を助長するような情報を発信したりするといった悪質な事案も急増しています。これらの　問題を解決するためにも、引き続き、私たち一人一人が自分の**課題として理解を深めようとする**ことが大切です。

鹿児島県人権同和問題啓発強調月間ポスター

「心のバリアフリー」について、考える機会にしていただければと思います。今月は、テレビスポットを始め、**多くの啓発活動等が行われました。今後の放映も、ご覧ください。**